

# 巻 頭 言

## 坪川先生のご逝去を惜しむ

須 田 教 明

元日本測量協会会長坪川家恒先生が8月25日ご逝去された。先生の御経歴を今更ここでつまびらかにすることも無いと思うが第2次大戦後の昭和20～30年代に於いて、特に測地学における貢献を知ることが我々の今後の研究開発の在り方にとり役立つことと思う。

先生は参謀本部陸地測量部、地理調査所（現建設省国土地理院）、東京大学地震研究所、文部省緯度観測所（現国立天文台）の要職を勤められ各職場で種々の貢献をされた。特に測量界が先生に負うところが多いのは国土地理院時代の業績であろう。国土地理院ではGSI型磁気儀、GSI型アストロラープ、GSI型プロトン磁力計等のGSI名の付いた機器が永年に亘り使用されているが、これらはほとんど坪川先生の考案された機器に他ならない。この傾向は他の機関に進まれても同様で、緯度観測所においても全自動アストロラープ、絶対重力計等の開発に尽力されたとお伺いしている。坪川先生が我々に教えられたことは常に勉強することであった。先生自身常に研究誌等を読んでおられ、何が何処に書かれているということをご存じであり、先生の先を越して知識を持つことは大変困難なことであった。特に測量機器に関する造詣の深さは大変なものであり、前述の機器の他自動レベル等の開発にもその一部を伺うことができる。また先生の指導は理論を実際に移すことであった。磁気儀の開発では先生ご自身でコイル巻きをされたという。

最近の技術開発の有り様は学際的なものが多く一人の能力を超えた集団によるものが多いが、そうはいうものの広い知識を持ちリーダーとして開発チームを率いることの出来る技術者の重要性は益々高くなっている。GPSの開発を見ると測地学、天文学、測量学、電子工学等の知識が必要なが容易に理解出来る。坪川先生は正にこのような人物であった。

我々測量技術者として先生の後塵を拝すものは先生のご薫陶を念頭に置き科学技術の発展を通して益々社会の発展に貢献したいと念じるとともに先生のご冥福をお祈りする次第である。

（常務理事・事務局長）

---

巻頭言	須田教明
59- 1 第五次基本測量長期計画と国土地理院研究開発五箇年計画	中堀義郎… 1
59- 2 精密測地網高度基準点測量の概要	佐々木正博… 7
59- 3 RASTER方式のCADによるマップデジタル化	佐々木康博・河戸一雄…13
59- 4 数値地図データのGISへの利用に関する研究	太田守重…22
59- 5 デジタルレベルの観測条件による精度の検証	第3技術部門…32
59- 6 砕波帯における波浪計測手法の開発	日向秀明…41
59- 7 日本とアメリカにおける総描の比較 —河川の単純化・平滑化について考察—	塚田野野子…45
59- 8 新しい都市計画窓口業務支援システムの開発	今野伸市…53
59- 9 税務地図情報システム	篠田順広・池田滋…59
59-10 DTMを用いた火砕流シミュレーションの開発	竹内仁・佐竹次郎…65
59-11 自動測量機を利用したワンマン測量システム	先村律雄…71
59-12 GPS測定の標準化に関する研究	箱岩英一・三島研二…77